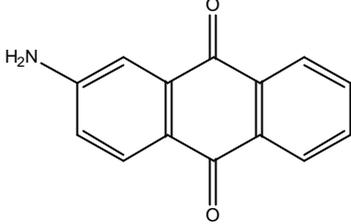


既存化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2000 - 5	官報公示 整理番号	4 - 706	CAS 番号	117 - 79 - 3
名 称	2-アミノアントラキノン 別名: -アミノアントラキ ノン		構 造 式		
分 子 式	C ₁₄ H ₉ NO ₂		分 子 量	223.23	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 不明 不純物 : アントラキノン 添加剤または安定剤 : 不明					
物理・化学的性状データ 外 観 : 赤色結晶 ^{2,3)} 融 点 : 295 ²⁾ 沸 点 : 昇華する ⁴⁾ 引 火 点 : 文献なし 発 火 点 : 文献なし 爆発限界 : 文献なし 比 重 : 文献なし 蒸気密度 : 該当せず 蒸 気 圧 : 該当せず 分配係数 : log Pow ; 1.84(計算値) ⁵⁾ 加水分解性 : 文献なし 解離定数 : 文献なし スペクトル : 主要マススペクトルフラグメント m/z 223(基準ピーク, 1.0)、167(0.39)、139(0.33) ⁶⁾ 吸脱着性 : 文献なし 粒度分布 : 文献なし 溶 解 性 : 2-アミノアントラキノン/水 ; 文献なし エタノール、アセトン、ベンゼン、クロロホルムなどの有機溶媒に易溶 ^{2,3)} 換算係数 : 該当せず					

総合評価

1) 危険有害性の要約

本物質のヒトに対する影響についての報告がないが、実験動物では腎臓、肝臓に影響がみられ、血液学的変化もみられている。変異原性・遺伝毒性では *in vitro* で陽性の報告がみられ、発がん性試験でラット、マウスに肝細胞癌、マウスに悪性リンパ腫の増加がみられている。生殖・発生毒性は報告がない。

本物質は環境中に放出された場合、物理化学的性状から考えて主として水圏及び底質中に分布するものと予想される。水圏では生分解されにくい、生物への蓄積性は低い。環境庁のモニタリングデータでは環境中から検出されたことはない。水圏環境生物に対する急性毒性は魚類で弱い。

2) 指摘事項

- (1) 変異原性・遺伝毒性において陽性の報告があり、発がん性試験で腫瘍の増加がみられている。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2000).
- 2) 化学辞典, 東京化学同人(1994).
- 3) The Merck Index, 12th. Ed., Merck & Co., Inc.(1996).
- 4) Richardson, M.L. et.al, The Dictionary of Substances and their Effects, The Royal Society of Chemistry(1992-1995).
- 5) 分配係数計算用プログラム“CLogP”, アダムネット(株).
- 6) NIST Library of 54K Compounds.